



寺ネット・サンガ通信 第7号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階
Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com

中下代表のブログ から



～暑い日には暑い中を、寒い日には寒い中を～

「中下大樹のブログ」（2012年8月30日）を編集

普段、タクシーを使う機会はあまりない。貧乏症なので、よっぽど急いでいる時以外は。しかし、今日、たまたま、待ち合わせ時間に遅れそうだったので、駅からタクシーに乗って、待ち合わせ場所に向かった。連日の猛暑にうんざりしていた私は、初老の男性であるタクシーの運転手さんに向かって「いやー、暑いですね」と何気なく声をかけたところ、思わぬ返事が返ってきた。

「そうですね。でも、日本には四季があり、暑いときは暑くないと経済は回らないのです。寒い時も同じ。私たち人間は、暑いと<涼しくならないかな>と言います。そして寒いと<はやく暖かくなりたいかな>と言います。でも、もしこの夏が冷夏だったら、田んぼのイネは育ちません。作物は全滅です。暑さと寒さを味わってこそ、春と秋のありがたみを知るのです。生きている喜びも知るのです。暑い時は、暑さを楽しめばいいんですよ」と、何だかお坊さんみたいなことを言われた。

私は思わず「本当にそうですね。今、お話をお聞きしていると、何だか人生も同じような気がしてきましたよ」と言うと、運転手さんは

「はい、人生も同じ事が言えるかもしれませんね。「幸せ」という文字を漢字で書くと、中に「辛い」という文字を含みます。幸せを感じるには、辛さを知っていた方がよいのです。辛いことがあるからこそ、幸せな気持ちになることも出来るのです」と。

タクシーに乗った時間は、時間にして5分～10分ほど。ほんの僅かな時間に過ぎない。そしてその運転手さんとは、もう二度と出会うこともないだろう。でも、何だかいい話を聞けて、得をした気分。変に押しつけがましくもなく、さりりと「暑さの話題から、幸せについて」まで言える、その運転手さんとの会話は、心地よい時間だった。

「暑い日は暑さを楽しもう。寒い日は寒さを楽しもう」素直にそう思えた。

中下代表の新刊 「死ぬときに後悔しないために、今日から大切にしたいこと」すばる舎

前作「悲しむ力」を踏まえた上で、東日本大震災、在宅やホスピスで看取った患者さんたち、自殺や貧困、孤立死の現場からの事例報告をもとに、自分の人生を主体的に生きるにはどうすればよいのか？という視点でまとめられています。



はじめに 死から学ぶことは、生き方そのもの

第1章 他者のあるがままの死の姿から、自分の死を考えてみる

看取りの現場でみた、ありのままの死の姿

第2章 葬儀やお墓の本当の意味 ～なぜ、人生の終焉を迎えるための準備が必要なのか

人の死を悼むということ ・ 葬儀やお墓、供養の本当の意味と現代の変化

第3章 無縁社会の中で、今日から大切にしたいもの ・ 無縁社会の中で、縁を紡ぐ

『坊コン』それは、坊さんと話せる日、坊さんに話せる場。

坊コン会場 「ウィズビジネスプラット」 東京都中央区日本橋3-3-3 山川ビル5階

TEL (03)5201-3883 fax (03)5201-3712 <http://www.wissquare-bc.com/access/index.html>

交通 ●JR 東京駅八重洲北口 徒歩3分 ●東京メトロ 銀座線、東西線、都営地下鉄浅草線 日本橋駅 徒歩3分

3月5日(月)



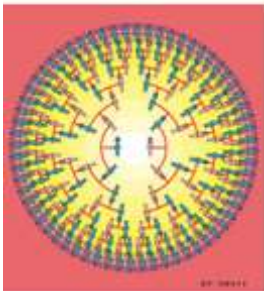
プチ法話「また会おう」 寺ネット・サンガ代表 真宗大谷派 中下大樹
被災地で友人の遺体に「また会おうな」と告げた警察官、「ママにしてくれてありがとう」と告げたお母さん。日本人の多くは無宗教だと言いますが、死者を敬い、悼む気持ちはだれもが持ち合わせているのだと思います。

坊コン談義「死ぬ前に語られる後悔」

「第一人称(自分)と第二人称(身内)への後悔は違う」「後悔が糧になる」「生きているから後悔ができる」「後悔はし尽くせれば(=納得すれば)後悔とならないのでは?」「後悔しないための仏教的な『修業』があるのですか?」「お坊さんになったことをすでに後悔しています」と、爆笑を誘う場面もあり、あつというまの2時間半

5月7日(月)

先祖七代の図



制作: 悟東あすか

プチ法話「ご先祖さまの話」 大田区 日蓮宗 永寿院住職 吉田尚英
ルーツ・家系図をたどってもせいぜい4代か5代。5代さかのぼると32人、7代で128人、10代で千人、20代で約104万8千人。その縁が複雑に絡まり巨大なボール状に。それが、いのちであり、仏であり、その中心にあなたがいる。

坊コン談義「ご先祖様って何?」

「なんで先祖って大切にしなきゃならないの?」「命のつながりを語り継ぐ」「心の相続」「100年後自分が先祖になった時にどう思われるのだろうか」「位牌や遺影など形ある物、祈る対象があることが重要」「地縁の安心感、月参りによるつながり」など 仏教の日本化、あいまいさを受け入れてくれる仏教の話なども出ました。

7月26日(木)



プチ法話「霊犬早太郎伝説」 江戸川区 真言宗 密蔵院住職 名取芳彦
遠州府中見付村では、少女を人身御供に捧げる習わしがあった。ところが神様の正体は大きな「ヒヒ」という怪物。そのヒヒが恐れる信州の霊犬「早太郎」を弁在という僧侶が探し当て、見事ヒヒを退治するも早太郎も絶命。その一節を名取さんの名調子で。

坊コン談義「お盆について」

「地域によって違うお盆」「日本人の霊魂観とは?」「亡くなった方との距離感」「ご先祖さまのもてなし方」「お坊さんもお盆は大変」「坊さんにお盆に檀家回りに来てほしい?」「菩提寺がない人が多い都会ではお盆が形骸化してくる」私個人の感想ですが、自分も送る迎えるという関係性を持つこと自体、幸せなことなのだと感じました。

8月25日(土)

夏の特別企画

怪談ときもだめし

日蓮宗 永寿院

まずお題目の写経をしてお灯明を入れるカップに貼り、その灯りのもと5人の語り手の怪談を聞いた後、お題目を唱えるお堂から、灯明をお墓にお供えするために二人ずつ消えていきます。単なる「きもだめし」ではなく、修行と先祖供養も兼ね備えた寺ネット・サンガならではの、怖くない「きもだめし」でした。



お題目を写経した灯明



松本智量さんの怪談



灯明をお供えした万両塚

仏教ひとまわりツアー ダイジェスト

第7回 6月9日(土)

住職の法話「仏に成るには」

真言宗 密蔵院住職 名取芳彦

真言宗 密蔵院

鯉が滝を登って龍になるように、我々凡夫も仏に成れるようにと、お坊さんが木魚をたたく。仏に成る方法とは、仏さまのまねをするということ。「言う事・する事・思う事」この3つとも仏さまのまねをできればあなたも仏さまです。



プチ修行「念珠づくりと写仏」



糸に珠を通して念珠づくり



同じ手本でも書き手によってみんな違う写仏

参加者の声（アンケートより）

- ・住職の法話は日常生活でも活用できるお話ですごくためになりました。若い人にもっと参加してほしい。
- ・法話もいいが、実際になにかをやらせてもらえるのは大変良いと思います。
- ・念珠に煩惱をすりつぶすという意味があったとは知りませんでした。
- ・宗派を超えてお寺を会場に開催されるのがよいと思います。数珠づくりが修学旅行のようで楽しかった。

第8回 9月8日(土)

神職のお話「神道の葬儀」

神道 朝霞出雲大社副長 渡邊忠道

神道 朝霞出雲大社

葬儀・霊祭で使われる神道用語の解説の後、魂を位牌にあたる「**霊璽**」に遷す遷霊祭と通夜際という儀式を実際に執行していただきました。詳しく聞くと、なるほどそうだったのかと神社を身近に感じることができました。



プチ修行「おほらえのことば 大 祓 詞 と しんごほうしょ 神語奉書」

祝詞の一つである「大祓詞」を一同で音読し、神様に幸せ祈り、世の中の役に立つことを誓う「神語」を毛筆で謹書しました。



参加者の声（アンケートより）

- ・普段知る事が出来ない神道の不思議に触れることができてうれしく思います。
- ・神社神道と教派神道の関係、神葬祭の儀式の所作や道具の意味付けが分かり大変勉強になりました。
- ・仏教の位牌にかわる霊璽に魂が遷り、亡くなった方はその家の守り神となるとの事。納得できました。
- ・神語を書いているとき、ドキドキして不思議でした。

次年度の予定

今後も「寺ネット・サンガ」は、**お寺と人を繋ぐ場所**として「坊コン」や「仏教ひとまわりツアー」を定期的に行ない、さらに**いのちに向き合う有縁社会づくり**を目指してさまざまな発信をしていく予定です。毎月1回は何らかのイベントを行ないます。詳細はホームページ・メーリングリスト等ネット上や、チラシなどによってご案内しますので、

お寺に興味をお持ちの方々とお誘いあわせご参加ください。

寺ネット・インフォメーション

10月12日

池上本門寺

「お会式参拝ツアー」



日蓮聖人御入滅の地、池上本門寺ではご命日の前夜10月12日、万灯が繰り出し、盛大に報恩感謝の法要が営まれます。一晩の参拝者が30万人ともいわれるお会式ですが、初めての方でも楽しみながらお参りができるツアーを企画しました。

17:00 永寿院集合 法話と法要（永寿院本堂）、食事（お弁当）

19:00 境内案内・万灯行列参拝・大堂で唱題行・本殿・ご廟所参拝

20:30 解散・以下自由行動（有志により屋台で懇親会）

※参加費 3000円（夕食代含む）

11月11日～16日

築地本願寺

「報恩講修行」



報恩講は、親鸞聖人のご往生の日である1月16日（旧暦11月28日）をご縁として、聖人90年の生涯を偲び、そのご恩に感謝させていただく法縁です。

15日には通夜布教（夜通しの説法）もあります。

法要日程 <各法要とも本堂>

晨朝勤行 6時半、日中法要 10時、速夜法要 14時（11～15日）、

初夜勤行 13～14日は17時、15日は18時 ※各法要に引き続き法話

どなたでもご参加いただけます。

11月15日

芝増上寺「十夜法要」



この世で善行を十日十夜行えばそれは仏の国土に於て善行を千年の間行うことよりも尊く勝れているという浄土宗で最も大切な經典の一つ「無量寿経」の一文に基づき、営まれる法要です。仏国土での千年の善行にも勝るお念仏をお唱えし、その功德をご先祖さまへの追善供養に、また、法要の後、皆様と共に大きなお数珠を繰り、阿弥陀様に護られていることを感謝し、明るく安らかな毎日を送ることが出来ますよう、どうぞご参拝下さい。

K T S K

（傾聴に取り組む宗教者の会）



被災地での活動報告や告知など。一見さんの参加も歓迎。

「何かしたかったけど、何をしていたか分からない」

「きっかけがほしかった」「どこにつながればいいのか分からなかった」

そんな想いをお持ちの僧侶、一般の方、一緒に活動しませんか？

毎月、被災地にて傾聴訪問、仏具（写経用紙、お線香含む）・生活物資配付を行なっています。

『いのちをありがとう』

キャンペーン



お釈迦さまがお生まれになった4月8日に『いのちをありがとう』の思いをこめてピンクのチューリップを贈り合おうというキャンペーン。

この秋にはチューリップの球根をみんなでお寺に植えるイベントを計画中。詳細が決まり次第、サンガのフェイスブックでお知らせします。

本の紹介

『すーっと悩みが消えてなくなるコツ』密蔵院住職 名取芳彦著 あさ出版 定価 1300円



「ホッ」と一息、ココロの荷物をここで降ろそう。

思わず笑ってしまうものから、生き死にまで、相談事ならおまかせあれ！

多種多様な相談、ほんの一例 Q自分に自信が持てません Q誰にでも「いい顔」をしてしまいます

『そっと後押し きょうの説法 其の二』そっと後押し僧侶の会 幻冬舎 定価 1100円



素直に耳を傾けると… 忘れかけていたことが見えてきます。

生きるヒントがたくさん詰まった、そばに置いておきたい1冊です。

今日一日を心穏やかに過ごすためのお坊さんたちからのメッセージ

※このコーナーに関するお問い合わせは事務局まで。

また、このコーナーに掲載を希望する情報がありましたら事務局までお寄せください。